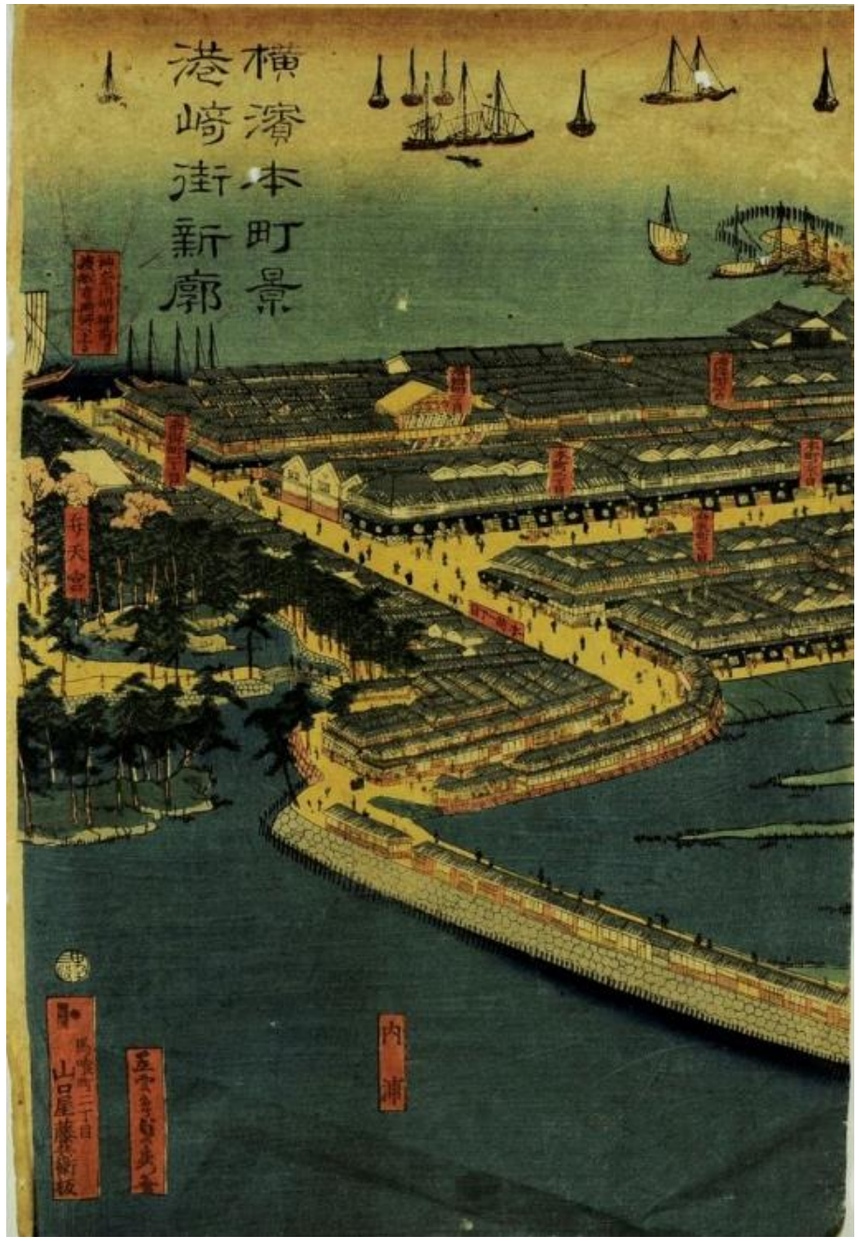
横浜港を描いた浮世絵



1860 年（万延 1）「横浜本町景港﨑街新郭（浮世絵）」

矢尾真雄家文書（当館蔵）デジタルアーカイブへ

解　説

江戸期時代、東海道が通る神奈川宿周辺は、「神奈川湊」があり、人や物の往来で賑わっていました。一方、神奈川湊と湾を挟んで南に位置する「横浜村」には砂州が発達した入海があり、江戸前期以降に新田開発が行われ、広大な平地が造成されていました。

幕末の 1858（安政 5）年、江戸幕府はアメリカをはじめ、オランダ、ロシア、イギリス、フランスと修好通商条約（「安政の五カ国条約」）を結び、箱館（函館）、兵庫、神奈川、長崎、新潟の五港の開港が取り決められました。しかしこのうち神奈川は通行の多い東海道沿いであったため、幕府は「神奈川在横浜」（横浜は神奈川の一部）とし、街道から外れた横浜を開港場としました。

列強は当初反対しましたが、幕府は築港を進め、翌 1859（安政 6）年に横浜港を開港しました。こうした経緯で開港した横浜は、開港後の貿易で急速に発展し、日本最大の貿易港となっていくのです。

福井とのかかわり

開港後、横浜には外国向けに生糸などを販売する商人が全国から集まっていましたが、福井藩も商館を出店しました。その一つ「石川屋」は、1859 年（安政 6）、福井藩が横浜村名主の石川徳右衛門名義で借用した 90 坪の土地に建てた藩営商館で、生糸・呉服・紙・蝋燭などを扱いました。藩は商売が軌道に乗ってくると、経営を岡倉覚右衛門（岡倉天心の父）に任せました。覚右衛門は江戸詰めの福井藩士でしたが、家督を養子に譲ってからは自らの身分を町人に替え、石川屋の経営に努めたのです。

資料の注目ポイント

資料は 1860 年（万延 1）の浮世絵「横浜本町景港﨑街新郭」です。江戸馬喰町二丁目の山口屋藤兵衛によって出版されました。本来は大判 3 枚続の作品で、これは 3 枚のうちの左端です。

当時話題となっていた横浜を俯瞰するように描いた作品で、活気のある開港場の様子が伝わってきます。

作者は五雲亭貞秀で、初代歌川国貞の弟子でした。横浜絵（開港期の横浜を題材とした浮世絵）の第一人者として知られています。幕末の浮世絵界を支えた画家であり、1867 年（慶応 3）のパリ万国博覧会では、浮世絵総代絵師として 10 点を出品し、高い評価を受けました。

関連資料、展示等

名称	概要	備考
「横浜本町景港﨑街新郭（浮世絵）」	**矢尾真雄家文書（当館蔵）** **資料番号 C0065-02043**	**デジタルアーカイブ福井で閲覧可能。** https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=011-1047673-1-p1

参考文献等

『神奈川県史　各論編　3』（1980 年　神奈川県）
『浮世絵大事典』（国際浮世絵学会　2008 年　東京堂出版）
『維新年表帖　上巻』（ユニプラン編集部　2015 年　ユニプラン）
『井伊直弼』（吉田常吉　1985 年　吉川弘文館）
『幕末新詳解事典』（脇坂昌宏　2004 年　学習研究社）
『評伝　堀田正睦』（土居良三　2003 年　国書刊行会）
『幕末の福井藩』（本川幹男ほか　2020 年　岩田書院）

神奈川県立図書館　https://www.klnet.pref.kanagawa.jp/digital_archives/yokohamae/category_1.htm　（2018 年 7 月 14 日閲覧）
文化遺産オンライン　http://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/294309　（2018 年 7 月 14 日閲覧）
横浜開港資料館　http://www.kaikou.city.yokohama.jp/document/picture/index.html　（2018 年 7 月 14 日閲覧）
横浜市立図書館　http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/library/digitalarchive/ukiyoe.html　（2018 年 7 月 14 日閲覧）
このまちアーカイブス（三井住友トラスト不動産）「横浜」　https://smtrc.jp/town-archives/city/yokohama/index.html　（2022 年 5 月 7 日閲覧）